

2013.4
Vol.4 Spring



早稲田大学高等研究所
Waseda Institute for Advanced Study

今号のLineup

クリックでコンテンツにジャンプ

2 3 特集 世界で活躍する研究者との国際交流を推進
訪問研究者プログラム

4 所友探訪 早稲田大学国際学術院 講師 舒 旻さん

4 Information Routledge-WIAS モノグラフシリーズを刊行します ほか

若き研究者に 最高の環境と刺激を提供するWIAS

早稲田大学 理工学術院 教授
理事（研究推進（統括）・情報化推進担当）

深澤 良彰 Fukazawa Yoshiaki

プロフィール

1976年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。1983年同大学院理工学研究科博士課程修了。早稲田大学理工学部助手、相模工業大学（現・湘南工科大学）講師、早稲田大学理工学部助教授を経て、1992年より教授。専門はソフトウェア工学、コンピュータ・プログラミング。



WIASは、若手研究者が任期付教員として、自立した研究環境で研究に没頭できる機関ですが、その特性から二つの意義があると考えています。一つは、若手研究者が科研費を始めとした研究資金を調達する力を養うということです。若いうちに多くの外部資金を取得した研究者は、その後も生涯にわたって多く獲得していくという統計データがあり、若い頃から組織に頼ることなく自分の力で研究費を獲得する実力を養うことが、その後の研究生活を左右すると考えています。もう一つは、WIASの環境です。雑用が少なく、研究そのものに没頭できる素晴らしい体制はなかなかありません。ただ懸念しているのは、独立した立場であることが、マイナスに働くこともあるということです。理系の場合、大きな研究

テーマの業績を出すためにはプロジェクトベースで進めることが

必要ですから、孤立しないよう自ら関係を築いていく力が求められるでしょう。

早稲田大学では先日、創立150年に向けた中長期計画「Waseda Vision 150」を策定しました。13の核心戦略のうち、研究に関わるのは「独創的研究の推進と国際発信力の強化」で、具体的な施策の筆頭として若手研究者のプロモーションを掲げています。「学術院、学科・専攻の垣根を越え、本学が擁する一線級の研究者と若手研究者の連携を推進する等、次代を担う若手研究者を生み出し続ける仕組みを検討する」としていますが、まさにその中心的役割を担っているのが、WIASではないでしょうか。国際発信力を強化する一施策として、WIASの訪問研究者プログラムが挙げられます。滞在中に共同研究の進捗を加速し、論文を完成することができれば、国際発信力に寄与することができます。著者が複数の国にま

たがる論文を発表することは、国際的な成果として大学評価につながるからです。

一方で、学術院等の既存の組織とのリンクを張り、WIASで力をつけた研究者を学内で生かしていく仕組みも考えていかなければなりません。同時に、既存の組織に所属する若手研究者をプロモートしていくことも大切です。

また、総合大学としての文理融合型研究を推進するための核心戦略「新たな教育・研究分野への挑戦」においても、幅広い分野を受け入れているWIASは、他の研究機関とともに重要な役割を担っていくことになるでしょう。

研究者は、若いうちに複数の研究機関をまたぎ、方々で刺激を受けながら、ステップアップするといったと思います。そうした意味でも、研究者の流動性は重要で、その一機関となるWIASには大いに期待しています。





世界で活躍する研究者との国際交流を推進

訪問研究者プログラム

WIASでは、2008年より開始したシニアリサーチフェロープログラムを
2011年以降は、訪問研究者プログラムと改め、学内全体の国際研究交流に寄与しています。

WIASの訪問研究者プログラムは、世界各国からさまざまな分野の第一線で活躍する研究者を公募によって受け入れる学内唯一の制度です。公募は年2回行い、早大専任教員の推薦を得た応募者多数の中から選考されます。訪問研究者は1カ月の滞在期間中にWIASだけでなく、大学院のセミナーや研究会での報告など、少なくとも4回のプレゼンテーションを行います。このことによって、WIAS内だけでなく、学術院に属する教員や学生とも研究交流を深め、学内全体に良い刺激を与えてきました。また、学内の研究者との共同研究、在任期間中の研究成果は国際学術誌に投稿され、早稲田大学の国際発信力の強化にもつながります。



プロフィール

フランス国立科学研究センター主任研究員 (2007～)、ESCP欧州教授 (2012～)、アメリカ会計学会・財務会計基準委員会 (FASC) 議長 (2011～2013)、Accounting, Economics and Law :A Convivium 編集主幹、パリ大学ソルボン校 HDR Accounting, Economics and Law (研究指導資格)。

2013年1月8日から31日まで滞在した
フランス国立科学研究センター 主任研究員・ESCP欧州教授
ユーリ・ピオンディ教授

学際性と国際性を兼ね備えた 期待以上のプログラムでした！

私は学際的で多国籍な環境で研究を進めてきましたが、WIASはまさに同じスピリットと目的をもった研究機関です。また、私の研究テーマの一つであるコーポレート・ガバナンスの第一人者である宮島英昭所長がいらっしゃることも大きな魅力です。今回の滞在期間中には、日本の皆さんに私の研究成果を紹介するとともに、大学院生に彼らの研究についてのアドバイスができました。そして最も大切なのは、辻山先生との共同論文の執筆を進めることができたことです。

研究者は、国際化と複雑さという課題に直面していますが、他国の研究者と交流することは、お互いの相違点を理解し、共通項を発見するという挑戦そのものですし、複雑さは、多様なアプローチ、領域、方法を気付かせてくれます。私たちはそこから学んでいかなければなりません。WIASは独特の手法でそれらの機会を与えてくれる機関だと思っています。

1月19日に開催された
ピオンディ教授の
講演会の様子



ユーリ・ピオンディ教授の推薦者

商学学術院 辻山 栄子教授

魅力的なプログラムになるよう さらなる改善を続けましょう！

ピオンディ先生とは、世界の会計基準設定機関に対して学術的な立場でコメントをする、アメリカ会計学会の中にある委員会のメンバーとして共に活動してきました。2012年2月にはシンポジウムのキーノートスピーカーとして来日していただいています。また、アメリカ会計学会のジャーナル『Accounting Horizons』に共同論文を出すことになっていたため、訪問研究者プログラムを利用して滞在していただき、集中して共同研究を進めることになりました。

WIASの訪問研究者プログラムは、早稲田大学の世界的なネットワークを強化するだけでなく、対外的にも研究志向の大学としてのプレゼンス向上に寄与すると思います。ピオンディ先生と交流した学生たちも刺激を受け、海外志向が高まっているようです。今後さらに、訪問研究者と早稲田大学の双方にとって魅力的なプログラムとなるよう、改善していければ良いですね。

学生の声

商学研究科 博士後期課程 財務会計専攻

山崎 尚さん

学問だけでなく、精神面でも 大きな刺激を受けました

海外の研究者との交流は、学問の進め方や物の考え方などさまざまな面で新たな視点を獲得ことができ、非常に意義深いものだと感じます。ピオンディ先生は学際的な研究をなさっているので、その話の内容には圧倒されます。自分の研究内容についてもアドバイスしていただき、自信ができました。私自身も海外で顔の広い研究者を目指したいと思っています。



宮島 英昭 所長より

研究の実質的な国際交流を実現



海外からの研究者招聘プログラムは、高等研究所発足当時から取り組みですが、2011年に制度を変更して以降、若手研究者の研究力の向上にダイレクトにつながるような仕組みが徐々に整い、研究の実質的な交流に手応えを感じています。学内の若手研究者に世界水準の研究を体感してもらい、直接の会話を通じて、海外の論文を読むだけではなかなかわからない、問題の設定の仕方や研究ネットワークの作り方を学び、また、研究姿勢からも大いに刺激を受けてほしいですね。今後は国際雑誌のエディターにお越しいただき、エディターの視点で論文のアドバイスをさせていただくなど、さらに実質的な交流を実現していきたいと考えています。



月例研究会でWIAS研究員と交流する訪問研究者



interview

研究者同士の自由な交流が新しい研究を生みます

2012年3月に滞在した訪問研究者、フランスの高等研究実習院（EPHE）のミシェル・オクマン教授と交流し、国際セミナーを開催した鎌田由美子助教にお話を聞きました。



助教（イスラーム美術）

鎌田 由美子 Kamada Yumiko

プロフィール

2002年慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業、2004年東京大学人文社会系研究科美術史学専攻修士課程修了。同年、同大学同専攻博士課程進学、ニューヨーク大学美術研究所博士課程留学。2008年より2010年までメトロポリタン美術館イスラーム部ホイットニー研究員、2011年ニューヨーク大学美術研究所より博士号取得。2011年より現職。専門はイスラーム美術全般、特に絨毯、テキスタイル、写本芸術など。

 http://www.waseda.jp/wias/researchers/list/profile/prof_y_kamada.html

2012年3月に、西洋美術史の研究者で、ルネサンス期のイタリアにおける中国や中東の文物のコレクションについても造詣の深いミシェル・オクマン先生が訪問されたので、国際セミナー「14-16世紀イタリアにおける異文化コレクション」を企画しました。イタリアでの調査結果を報告していただくと同時に、私はルネサンス期イタリアにおけるイスラーム美術の受容について発表しました。このテーマは、イスラーム美術研究においては研究の蓄積があるものの、それが西洋美術の研究者に必ずしも共有されていないので、その紹介を目的として発表しました。これを改稿したものが、早稲田大学の『イスラーム地域研究ジャーナル』に今春掲載予定です。

また、2013年1月には国際セミナー「東方アジアにおけるイスラーム美術」を開催し、私自身を含む国内外6名の研究者が発表しました。まだ十分に研究されていないこの分野の発展には、国内外の研究者のネットワークを作り、議論を共有することが必要なので、企画しまし

た。どちらの国際セミナーも、高等研究所による支援によって実現しました。

メトロポリタン美術館のフェローをしていた頃は、世界中から集まったフェローたちの研究成果を聞くことが大きな刺激になっていました。高等研究所には、さまざまな分野の優れた研究者が頻繁にいらっしゃるので、日本にいないから各国の研究者と交流でき、同様の刺激を得ています。こうした交流も、高等研究所の魅力ではないかと思います。今後も訪問研究者の方々との交流を楽しみにしています。



日本に伝わるキリスト教美術についての調査のため、オクマン先生を東京国立博物館にご案内しました

2013年度訪問研究者

氏名	現職	着任時期	専門分野	推薦者
Henning Rosenau	Professor, University of Augsburg <Germany>	2013/5/15	Criminal Law and Procedure	法学学術院 田口 守一 教授
Miroslav Barta	Professor, Charles University in Prague <Czech Republic>	2013/5/26	Ancient Egyptian Society during the third mill. B.C.	文学学術院 近藤 二郎 教授
Ara Basmajian	Professor, City University of New York <USA>	2013/6/1	Mathematics; Hyperbolic Manifolds, Riemann Surfaces, and Discrete Groups	教育・総合科学学術院 松崎 克彦 教授
Gregory J. Kasza	Professor, Indiana University <USA>	2013/6/3	Comparative Politics	政治経済学術院 河野 勝 教授
Rodney Smith	Associate Professor, University of Minnesota <USA>	2013/9/15	Applied Economics, Resource Economics	社会科学総合学術院 弦間 正彦 教授
Mariko Tamanoi	Professor, University of California, Los Angeles <USA>	2013/10/1	Anthropology, History	国際学術院 ロバーツ・グレンダ 教授
Masao Nakamura	Professor, University of British Columbia <Canada>	2013/10/15	International Business, Japan and Asian Economics, Cooperative Governance	商学学術院 久保 克行 教授

2011、2012年度訪問研究者

氏名	現職	着任時期	専門分野	推薦者
Raghavendra Rau	Professor, University of Cambridge <UK>	2011/11/1	Corporate Finance	商学学術院 蟻川 靖浩 准教授
Siegfried Boecher	Professor, University of Mannheim <Germany>	2012/1/9	Number Theory, Automorphic Forms	教育・総合科学学術院 広中 由美子 教授
Michel Hochmann	Professor, Ecole Pratique des Hautes Etudes <France>	2012/3/1	Art History	文学学術院 デュッソド・オディール 教授
Harold Bush	Professor, Saint Louis University <USA>	2012/3/15	American Literature and Cultural Studies	教育・総合科学学術院 石原 剛 准教授
Boris Lanin	Professor, Academy of Education of Russia <Russia>	2012/4/1	Methods of Teaching Literature	文学学術院 貝澤 哉 教授
Alessandro Stanziani	Professor, École des Hautes Études en Sciences Sociales (EHESS) <France>	2012/10/9	History Economic and Social History	政治経済学術院 鈴木 健夫 教授
Zhejun Zhang	Professor, Beijing Normal University <China>	2012/10/1	Comparative Literature (theater arts)	文学学術院 竹本 幹夫 教授
Yuri Biondi	Tenured Research Fellow, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS) <France>	2013/1/8	Financial Accounting, Corporate Governance, Financial Regulation	商学学術院 辻山 栄子 教授



早稲田大学国際学院
講師
(国際関係論)
舒 旻
Shu Min

プロフィール

1998年復旦大学国際政治学部卒業。2005年ブリストル大学政治学研究科博士課程修了、同大学ポスドクフェローを経て、2006年復旦大学経済学研究所、欧州研究センター専任講師。2008年より早稲田大学高等研究所准教授、2010年より現職。専門は地域統合論と国際政治経済学。

[HP] <http://www.aoni.waseda.jp/min.shu/>

広い視野を 持ち続ける研究者を目指して

WIASに所属していた1年半は、あっという間でしたが、ヨーロッパと東アジアにおける地域統合の比較について3本の研究論文を発表することができ、非常に充実した日々を過ごすことができました。研究に専念できる環境を期限付きで与えられるWIASでは、期限内に成果を出さなければならないという良い意味でのプレッシャーがあったと思います。2014年には、WIAS時代の研究が土台となった本をRoutledge-WIASモノグラフシリーズから上梓する予定です。WIASの魅力は、多分野にわたる若手研究者との交流、海外からの訪問研究者と討論する機会に恵まれていることです。一流の研究者になるには、国際的な環境を経験することが必須だと思いますが、そうした意味でも良い環境だと思いました。あの1年半がなければ今の自分はいませんし、今でもWIASの一員だという意識があります。

その後、国際教養学部のテニュア・トラック研究員としての3年間を経て、2013年4月より同学部の専任講師をしています。テニュア・トラックの立場を振り返ると、大学に貢献しているかを常に意識し、早稲田への帰

属意識が醸成されたと思います。

現在は、国際教養学部を中心に週7～8コマの授業とゼミを持っているので、研究に当てられる時間は減りました。しかし、教育の現場では、学生の質問からはっとさせられるような新たな視点が得られることもあり、研究と教育は共に重要です。ファカルティセミナーに参加するなど、教員としての能力向上にも取り組んでいます。

私が目指しているのは、広い視野を持ち続ける研究者です。日本に滞在する中国の研究者として、さまざまな考え方を理解したうえで、東アジアの地域統合を研究していきたいと考えています。

国際政治経済学ゼミの
学生と研修先タイの
タマサート大学にて



研究室にて

報告

Routledge-WIAS モノグラフシリーズを刊行します

WIAS研究員のモノグラフシリーズ『Routledge-WIAS Interdisciplinary Studies』(ラウトリッジ社)を刊行いたします。ラウトリッジ社は人文科学、社会科学分野の学術書出版やオンラインリソースの提供を行う大手海外出版社です。1836年設立以来、アインシュタイン、ラッセル、サルトルなどの偉大な学者の書籍を数多く出版した実績があるほか、現在では毎年ジャーナル600冊、新刊2,000冊を出版するなど、多彩なテーマで電子書籍を含む出版物を取り扱う会社として有名です。WIASモノグラフシリーズ第1巻は2014年刊行予定です。ご期待ください。



報告

2013年度新任研究員ご紹介

昨年実施した2013年度研究員公募では、計507名(自然科学分野152名、社会科学分野169名、人文科学分野186名)の方にご応募いただき、次の11名の採用者が決定しました。たくさんのご応募ありがとうございました。2014年度公募は4月中旬より開始予定です。

氏名	研究テーマ
伊藤 昇 助教	結び目や3次元多様体の量子不変量のカテゴリ化とその基礎理論の構築
牛山 美穂 助教	「ノンコンプライアンス」の医療人類学的研究
河合 望 准教授	エジプト王朝時代の聖地の形成と展開に関する考古学的研究
Marisa Kellam 准教授	Parties For Hire: Political Parties and Coalitional Instability in Comparative Perspective
杉森 絵里子 助教	空想と現実を区別するメカニズム：自己行為の時間的・空間的拡張
Sutee Anantsuksomsri 助教	Thailand disaster management and Japanese automobile industry: An integration of CGE and spatial ABM
田邊 優貴子 助教	環境変動下における極域湖沼生態系の遷移過程と応答
中條 美和 助教	政治的信頼の構造と発展
皆川 友香 助教	健康余命に見る国民健康状態の国際比較
門内 隆明 助教	メゾ非平衡系における操作的統計力学の構築
山本 英明 助教	脳神経ネットワークの細胞培養系モデルの構築と神経精神疾患研究への展開

[HP] <http://www.waseda.jp/wias/researchers/list/profile/>

お知らせ

2013年度前期月例研究会のご案内

研究分野を超えた交流を図るため、WIASでは毎月2名の研究員が発表する公開研究会を開催しています。自然科学、社会科学、人文科学とさまざまな分野の研究者の発表と活発な質疑応答は、異なる分野研究者の視野を広げ、研究活動に大きな刺激を受けると好評です。2013年度前期日程は右記のとおりです。お気軽にご参加ください。

■ 日	程：4月12日(金)、5月10日(金)、 6月14日(金)、6月21日(金)、 7月12日(金)、9月13日(金)
■ 時	間：11:00～12:30
■ 場	所：早稲田キャンパス9号館5階 第一会議室(予定)
■ 参加申込	：公式ホームページより ご登録ください。
[HP]	http://www.waseda.jp/wias/event/monthlyconference/

Lineupに戻る